

3 研究のまとめ

(1) 研究の成果

本研究では、小学校図画工作科の表現領域において、自分の「思い」を基に表現を追求する児童の姿を目指してきました。そのために、児童の「思い」の進み方とイメージの形成過程を考慮した学習過程を設定し、造形的な視点で捉える見方・考え方を働かせて行う造形活動を取り入れてきました。

具体的には、造形的な気付きを生み出す体験活動【検証1】、イメージを広げる共同製作【検証2】、表現を追求させる意見交換・交流活動【検証3】の3つです。また、造形活動を行うために児童が造形的な視点で捉える見方・考え方を働かせて、造形的な特徴を可視化した言語ツールを用いました。

表1は、造形的な視点で捉える見方・考え方についての事後アンケートの結果です。児童は、自分の「思い」を表現するために、形や色による見方・考え方を働かせて活動していたこと、またその時に模様・色チャートの言語を使ったり、参考にしたりして造形活動を行っていたことが分かります。さらに、形や色による見方・考え方の必要性も感じており、この学習を通して得た自分なりの見方・考え方を知識として、今後の表現や鑑賞に生かしていこうとする意欲もうかがえました。

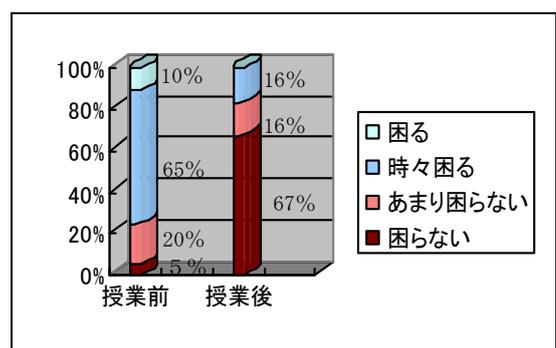
表1 造形的な視点（形や色）で捉える見方・考え方についての事後アンケート（全30人）

模様・色チャートの見方を使って、考えたり、表したりした。	30人（100%）
模様・色チャートの見方を使うことは良かったと思う。	28人（93%）
《理由》・作りたい作品のイメージが考えやすかった。（15人） ・友達のイメージや工夫がよく理解できた。（14人） ・みんなが同じイメージで考えられた。（17人）	・自分のイメージを伝えやすかった。（16人） ・互いのアドバイスが伝わりやすかった。（10人） ・話し合いが進んだ。（11人）
この学習で学んだ形や色で見たり、考えたりすることは、これからも役に立つ。	27人（90%）
《理由》・色や形で感じや雰囲気が出せる。 ・色や形の効果を考えると描きやすい。 ・これからの図工の授業（スケッチ・工作など）に使える。 ・生活の中でも色や形を楽しむことができる。	・形や色から想像を広げることができる。 ・今の授業でうまくできたのもっといい作品ができそう。

発想・構想時における困り感について、授業前と授業後と比較してみました。資料1のように、困り感をあまり感じることなく活動できた児童が大きく増えていました。これは、漠然と表すのではなく、形や色を視点をもって意識的に見たり考えたりしたことが、影響していると考えます。

【検証1・2・3】における分析・考察やこれらの事後アンケート結果から考えると、本研究の主題である“自分の「思い」を基に、自分なりの表現を追求する”において、一定の成果があったと捉えられると考えます。

このような造形活動を繰り返し行うことで、児童達は、対象を形や色という造形的な視点で思考することができるようになります。そして、その見方・考え方は、友達の見方・考え方に触れることで広がります。こうして獲得した見方・考え方は、造形的な知識となって児童の中に蓄積され、それを活用してイメージを形成し、自分なりの表現をつくりだすことができるようになりますと考えます。



資料1 発想・構想時における困り感

(2) 今後の課題

造形的な視点で捉える見方・考え方を広げていくことは、本研究で目指す、自分の「思い」を基に主体的に表現することにおいて一定の効果があったと考えます。〔共通事項〕を支えとする指導や言語活動の工夫において、造形的な視点で捉える見方・考え方を育成することの可能性を見出すことができたように思います。

今後は、発達段階によって造形的な視点で捉える見方・考え方を整理し、さらに児童の「思い」やイメージ形成に寄り添った言語活動の工夫を行いながら、具体的な実践を進めていくことが必要だと考えます。様々な表現題材の開発、一時間の中での効果的な言語活動の設定、めあてに沿った交流活動の工夫等を今後も継続して探っていきたいと思えます。